

施設及び長崎県臨床検査技師会における人材育成について

丸田 秀夫

社会医療法人財団白十字会佐世保中央病院 臨床検査技術部 部長
一般社団法人長崎県臨床検査技師会 会長

当院検査部門における現状

当院は長崎県北部に位置し診療科 34 科、一般病床 312 床で地域の基幹病院の一つである。検査部門は医師 1 名、臨床検査技師:27 名(内4名非常勤)、検査助手:2 名からなり、常勤技師の平均年齢は 33.2 歳と若い職員が多い職場である。平成 24 年 3 月に ISO 15189 の認定を取得し、“常に良好な臨床検査業務を実施し医師並びに患者に高い品質の臨床検査サービスを提供する”ことをミッションに掲げ日々の業務に取り組んでいる。臨床検査の品質を左右する要素は様々であるが、その中でも人材に係る部分は多くの施設において重要視されている。当部門では ISO 15189 認定の取得後は、規格の要求事項に準拠した人員の教育・訓練・評価等を進めている。各経験に応じた教育プログラムを作成し教育の手順は文書化され適宜見直しを行い、確実な実施記録が残される。教育・訓練による業務の習熟を確認するために定期的に力量の評価を行い、不十分な場合は再教育、再評価が行われる。

また、品質目標にはバランススコアカードを使用しており、業績評価指標として学会・研修会参加数、学会発表者数、新規認定技師数などを定め、各職員は技術者としてのスキルの向上に努めている。学会等での発表・講演については 1 人年間1演題を目標に掲げ、上司・先輩の指導のもと、若い世代を中心に取り組みをすすめている。認定資格の取得に関しては法人の制度として、費用面を中心にサポートを得ることが出来る資格取得奨励・支援制度が 10 年ほど前より運用されている。そのような背景もあり各種認定技師が漸増し、現在常勤技師の半数以上は何らかの資格を有しており、未取得の職員も日常業務に関連ある資格を中心に認定取得の準備を進めている。

長崎県臨床検査技師会における現状

長崎県臨床検査技師会(以下長臨技)は昭和 28 年

11 月長崎県衛生検査技術者会として結成され本年で設立 63 年目を迎える。現在、会員数約 830 名で、県南・県央・県北・離島の 4 地区から構成され、役員を選出は役員推薦委員会により、地区ごとに定められた定数の役員候補者が推薦され総会で承認を受け役員に就任する。当会の特色の一つとして役員に若い世代が多く登用されていることがあげられる。現在全理事の平均年齢は 43.8 歳で会長、副会長を除くと平均 40.7 歳と若い役員で構成されている(最年少 29 歳)。各職場で日常業務の中心的役割を担う多忙な中で、若い時から役員として会務を経験することにより、職能として技師会活動の必要性や施設間の連携の重要性への理解が深まると考える。それらの若い世代の中から次の技師会の中核を担う人材が育成されるとともに、各職場に役員を経験した、技師会活動に理解ある管理職も増えてくる。当院の 34 歳の職員も長臨技総務局長として参画し、多忙な毎日を送っている。またもう一つの特色として会長の在任期間が長期間であることもあげられる。前々会長は 13 年、前会長は 17 年と長きに渡り長臨技を牽引してこられた。強力なリーダーシップを持った会長による一貫した方針による組織運営と、適度な役員の入替わりにより、広く県内の施設に技師会活動への理解が得られているものと考ええる。